

「読書感想文コンクール」を  
実施しました

葛飾区では、教育振興ビジョンの取組の一つとして、児童・生徒の読書活動を推進するために「読書感想文コンクール」を実施しています。

今年度は、小学生1万7千272点、中学生5千367点の応募があり、その中から、次の最優秀賞・優秀賞・佳作が選ばれたほか、363人が入選しました。

■小学校低学年の部

最優秀賞

植村 明莉(うえむら あかり・原田小2年)

優秀賞

桑原 和馬(くわはら かずま・堀切小1年)

柳下 菜々子(なげした ななこ・幸田小2年)

佳作

富岡 瑛太(とみおか えいた・上千葉小1年)

内田 侑冴(うちだ ゆうせい・上平井小2年)

大矢 風花(おおや ふうか・飯塚小1年)

■小学校中学年の部

最優秀賞

生島 はな(おじま はな・亀青小3年)

優秀賞

佐藤 乃彩(さとう のあ・西小菅小3年)

北岡 飛馬(きたおか ひゅうま・幸田小4年)

佳作

佐藤 風沙(さとう なぎさ・小松南小3年)

横田 和花(よこた わか・亀青小4年)

林 侑希子(はやし ゆきこ・中之台小4年)

■小学校高学年の部

最優秀賞

飯田 耀斗(いいた あきと・堀切小6年)

優秀賞

原 百合香(はら ゆりか・松上小5年)

加瀬 柚妃(かせ ゆずき・西小菅小5年)

佳作

藤谷 亜依莉(ふじや あいり・川端小6年)

橋本 凜花(はしもと りんか・花の木小5年)

伊藤 夏音(いとう かのん・上小松小6年)

■中学生の部

最優秀賞

出水 万結(みず まゆ・亀有中3年)

優秀賞

恩田 メイ(おんだ めい・四ツ木中2年)

中屋 美里(なやか みさと・小松中3年)

大町 彩菜(おおまち あやな・亀有中2年)

佳作

金森 美幸(かなもり みゆき・金町中2年)

佐野 璃央(さの りお・双葉中2年)

藤山 晴菜(かげやま はるな・立石中2年)

妹尾 悠由(せのお ゆう・立石中2年)

清水 万里名(しみず まりな・東金町中3年)

塚本 夏紀(つかもと なつき・新小岩中3年)

指導室 ☎(5654)8469 (敬称略・順不同)



中学生の部 最優秀賞  
「イールの勇気をつなぐ」

亀有中3年 出水 万結

「いつかきつと、爆発的なコレラの発生が、過去のものになる日がくる。わたしもきまも、生きてその日を迎えることはできないかもしれないけど、わたしの名前も忘れ去られてしまわないでね。」  
これは、コレラの感染源が水だと証明した、スノウ博士の言葉だ。このたった五行の言葉からスノウ博士の覚悟と、コレラの発生を止めたいという切実な思いが伝わってくる。自分の功績など考えず、ただ人々の命を救いたいと願う博士の言動に私は感動した。それと同時に、教育がなく、迷信を信じているような多くの人々の心を動かすことは、本当に難しいことだと思った。博士は、多大な時間と労力を尽くしてつきとめた原因を広く世の中に浸透させることの難しさを知っていたのだ。だからこそ、この言葉が私に強く響いてきた。

よりよい世の中になりたいという思いだけでは、人々を動かすことはできない。しかし、その場しのぎの優しい言葉だけでは、世の中が変わることはない。どうしたらよいのだろうか。  
この本の舞台は、コレラが大流行したロンドンのブロード街。たくさんの人々がコレラに感染し、住人はみな、瘴気が原因だと信じてきた。しかし、スノウ博士は汚染された水が感染源だと主張した。その説を信じた一人の少年、イールがいた。  
イールは十三歳の若さで両親を亡くし、一人で生計を立てる、責任感が強く、とても賢い少年だった。そして、その責任感と、頭の回転の速さから「勇気」を得たのだろう。  
私は、イールは二つの「勇気」を持つていたと思う。まず一つ目は信じる勇気だ。常識をひっくり返すような意見であったとしても、尊敬するスノウ博士が将来のために今、コレラの感染源をつきとめようとしている熱意を信じたのだ。だれも信じていないに関わらず、強い意志で信じ続けた。二つ目は、どんなに苦しいところでも逃げず、立ち向かう勇気だ。コレラによってたくさんの仲間を失ったが、イールは前に進み続けた。そして、博士の説を証明するため、自らの足で証拠を捜した。これら二つの勇気が重なったことで、初めて迷信を信じ込んでいた無知な人の心を動かすことができたのだ。  
では、イールが「勇気」を持ち続けることができたのはなぜだろうか。それは、亡くなった母の教えや言葉があったからだろう。人としてあたり前の

礼儀、そして弟(ヘンリー)を守るという約束。これがイールが生き抜く上の支えであり、使命であった。ヘンリーを守るために、辛いことも乗り越えてきた。いや、もしかしたら、ヘンリーがいたからこそ困難を乗り越えられたのかもしれない。そんな環境がイールの勇気を生み出し、人の心を動かす原動力となったのだと思う。  
そして、イールはそんな母への感謝を決して忘れなかった。私は、感謝できる人は感謝されると感じる。だが、現代を生きている私達は、平和な毎日を送れることがあたり前となり、両親や食べ物に感謝の気持ちを抱くことが少なくなってきた。たくさんの人に支えられて生活していることを忘れ、恩恵を受けるだけで満足しているのだろう。この本は平和になった今だからこそ、もう一度人間らしく生きるという原点に戻り、感謝の気持ちを持つことの大切さに気付かせてくれる作品だ。私たちは恩恵を受ける立場だけでなく、これからは与える立場になっていくべきだろう。  
未だ、世界では各地で戦争が起きている。最近問題になったシリアの難民には、多くの子供たちの姿があった。テレビに映る、その子供たちの目は、私には何かを訴えているように感じた。普通に食事をして、学校に行っている、暖かい布団で寝たい。ただそれだけを願っているのに、決して口に出さない。私たちがあたり前に行っていることができない。イールもそうだった。それでも、自分の置かれている環境を受け入れ、一生懸命に生きた。  
なぜ、そのような罪のない人々が苦しまなくてはいけないのか。なぜ、争いは止まないのか。私は、歴史の授業から「戦争は、戦争に至るまでに原因がある」ということを学んだ。今起きている戦争にも、何か原因があるのだろう。私は将来、その根本的な原因を突き止め、平和を口指す努力をしたい。そのためにはまず、現実から逃げることには背けないことだ。遠い国の出来事だと決めつけ、自分には関係ないという顔で平然と過ごすことだけは、絶対に避けたい。きつと多くの人が難民の人々を救いたいと思っっているはずだが、行動に移せずにいる。だが、いつか世界の戦争を止めるため、誰かが命をかけなくてはならない日が来る。その一人になる可能性は私も含め全ての人に平等にあるのだ。争いの根本を探る勇気が私たちに必要だ。イールとスノウ博士がたくさん命を救ったように、世界平和が実現することを信じて。イールの勇気を今、私がつなぎたい。